

# 追手門学院大学 105分授業のTips集

1

## はじめに

追手門学院大学では今年度から105分授業(13週)が導入されました。春学期の授業終了後に、全教員を対象としたアンケート調査(任意)を実施しました。回答結果を基にこのTips集をまとめました。105分の授業運営、工夫、課題を集約し共有することで、さらに教育効果を高める授業改善へと繋げたいと考えたためです。アンケート集計結果のほかに、授業形態ごとの1コマの授業プラン、増加した15分の活用、学生の集中力を促す授業の工夫、改善などについてまとめています。秋学期の授業運営の参考にしていただければ幸いです。なお、本アンケートの集計結果はWebClass内「教育開発センター」ページに掲載していますので、そちらも併せてご覧ください。

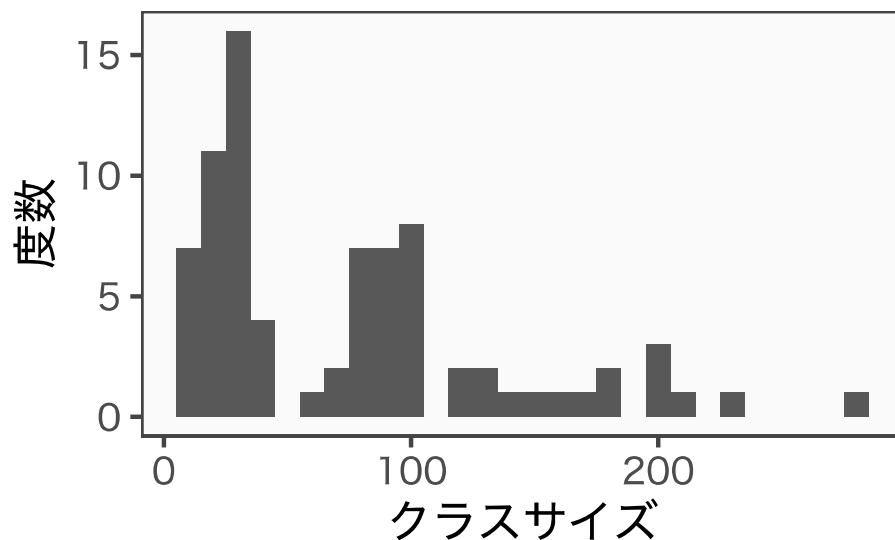
調査実施期間:2021年7月9日~7月31日

回答数:60件

副学長 金政祐司  
教育開発センター長 原田章

2

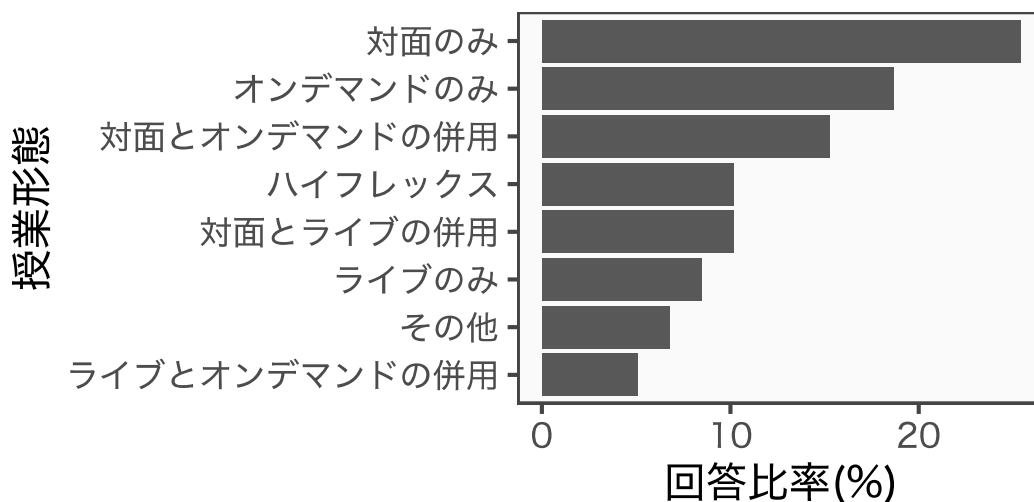
## 受講者数



注) 担当されている複数授業についての回答も含まれています

3

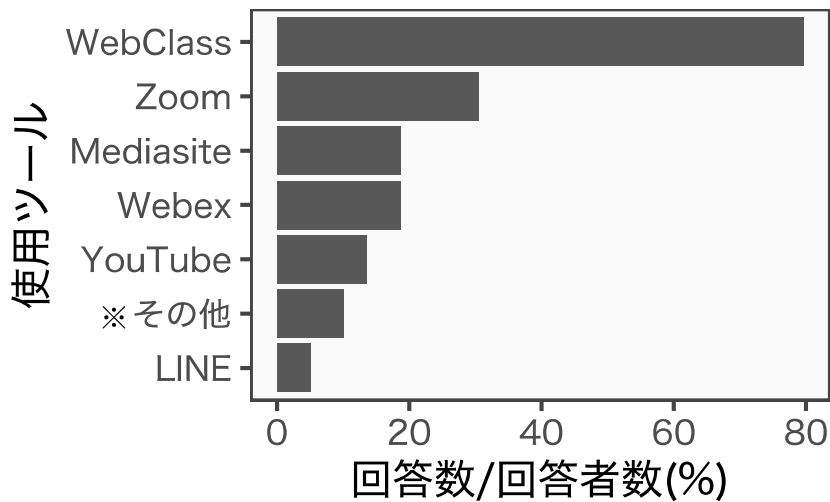
## Q 13回の授業形態を教えてください



※その他  
・最初だけ対面、残りはライブ  
・途中1回のみオンタイムのライブオンライン、残りは対面と同時に遠隔参加も可能な形で実施。授業後に講義録画も配信

4

## 使用されたツール



※その他

- ・DropBox
- ・miro (オンライン上で共同編集ができるホワイトボード)
- ・OBS Studio (無料の無料のライブ配信用ソフト)
- ・自作サイト

5

## 1コマの授業プラン

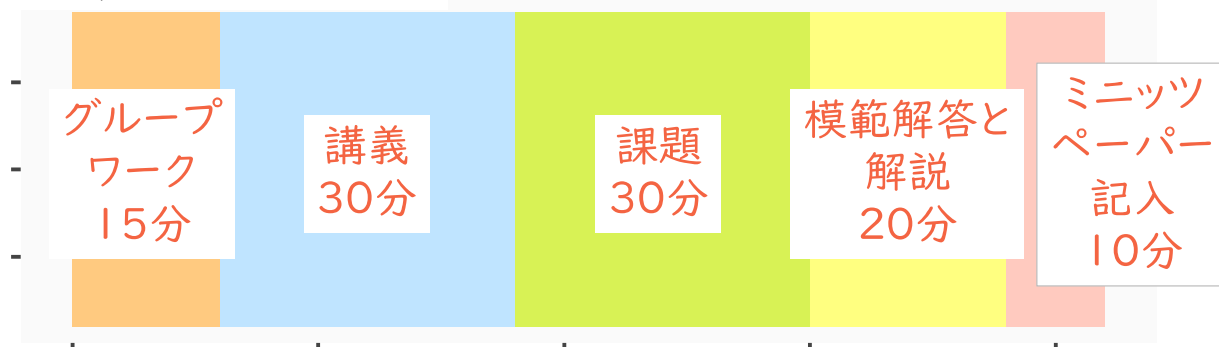
対面/ライブ授業の例1



6

## 1コマの授業プラン

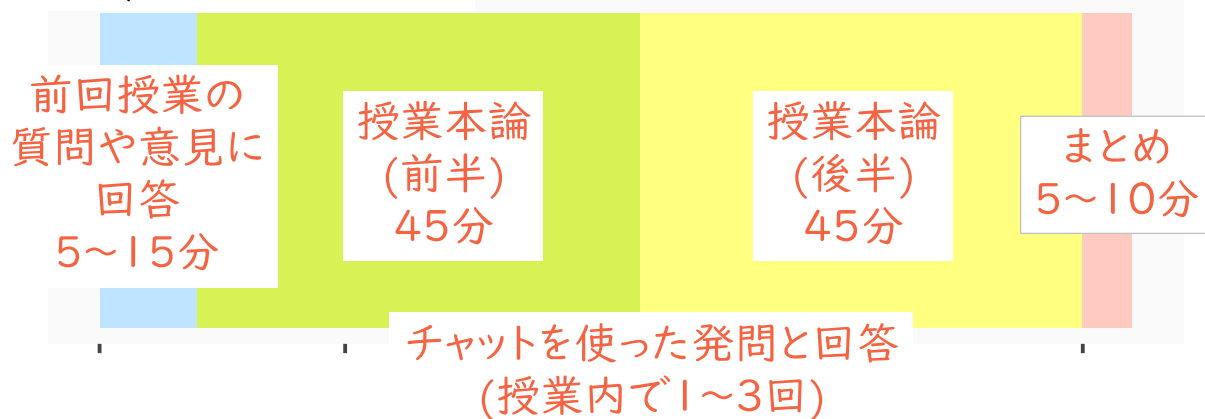
### 対面/ライブ授業の例2



7

## 1コマの授業プラン

### 対面/ライブ授業の例3



8

# 1コマの授業プラン

## 対面/ライブ授業の例4



9

# 1コマの授業プラン

## ハイブリット授業の例



10

## 1コマの授業プラン

### オンデマンド授業の例1

授業資料  
+  
解説動画  
(40~60分)

小テストの  
実施

小テストの  
回答を掲示

毎週月曜日の朝



締め切りは  
1週間後の日曜日



締め切り後

11

## 1コマの授業プラン

### オンデマンド授業の例2

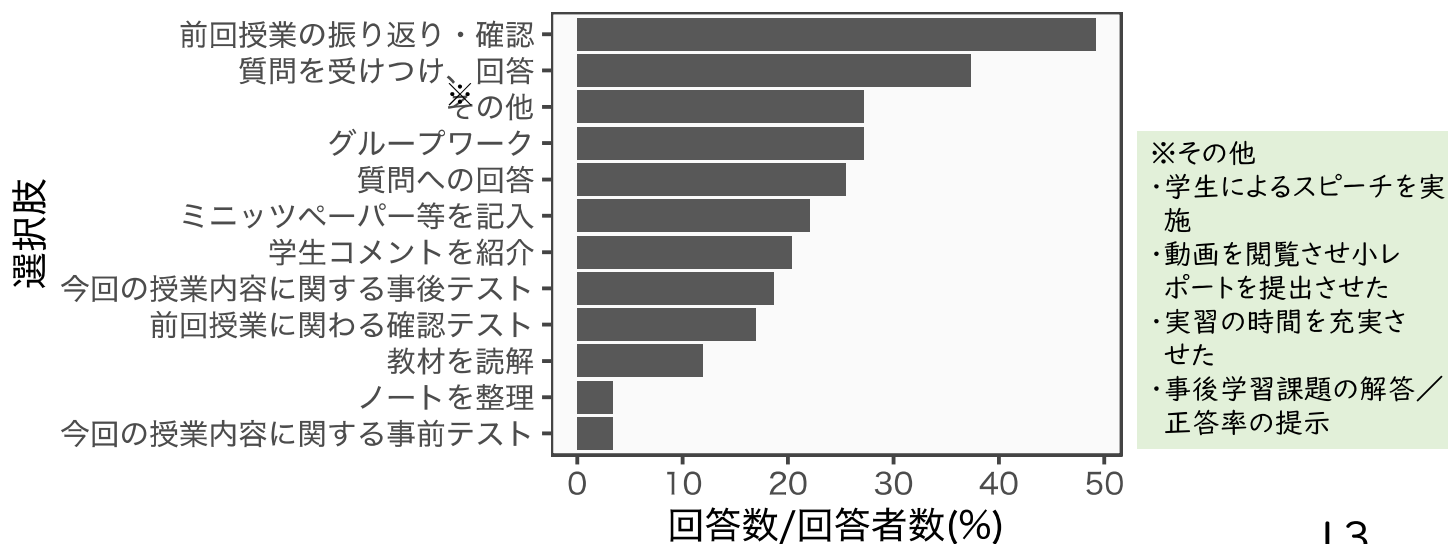
動画資料2つ  
(40~50分)

動画の内容に関する  
テスト5問

締め切りは  
授業終了後1週間以内

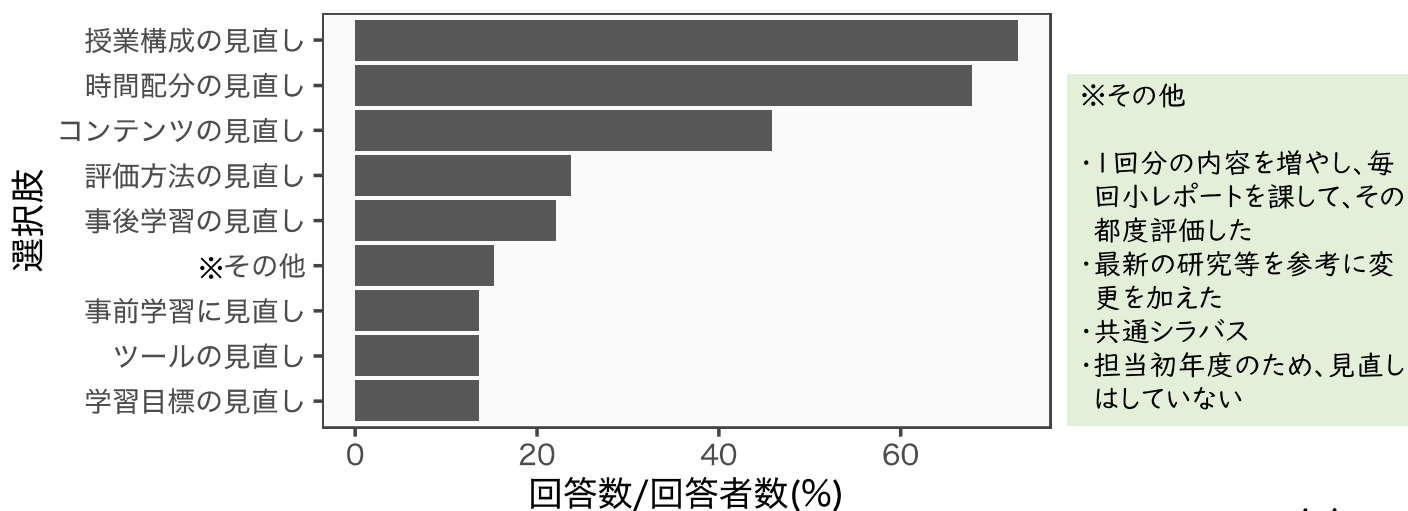
12

## 増加した15分間の活用



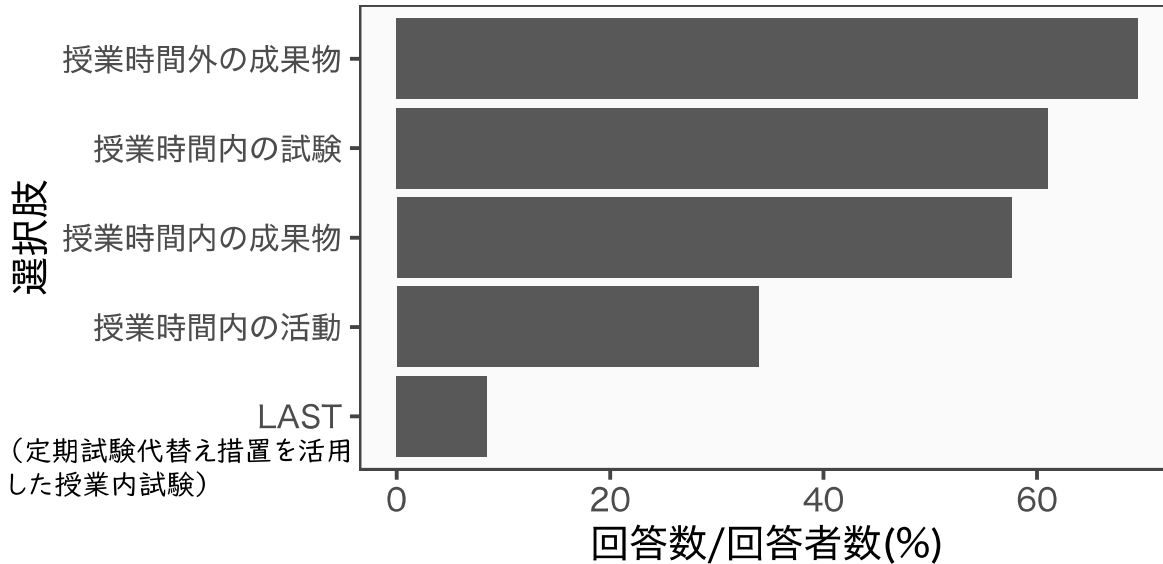
13

## 13回のコース設計に関する見直し



14

## 採用された評価方法



15

## 学生の集中力を促す工夫(1)

毎時間の授業プランを最初に学生に示し、それに従って授業を進めるよう意識した。そのおかげもあってか、学生は比較的集中して授業に参加できていたように思う。授業開始前までは105分も授業を行うと学生と教員の間で中だるみが生じると懸念していたが、意外と時間が経つのが早く、学生から授業の終了を急かすような声は聞こえなかった。

授業内容自体が充実していたため、105分の授業も学生達はあっという間に過ぎていたように見えました。

時間の問題ではなく、テーマ次第。リサーチし、知らないことを知るきっかけを作るだけの時間がありよかった。

時間は長いものの、振り返り時間やまとめ時間の前に、切替のタイミングを入れられれば、大きな問題はないように感じた。

毎回の課題を提出することによって、各回テーマに対して真剣に取り組んでいる様子が見られた。

16



## 学生の集中力を促す工夫(2)

1回の内容が多すぎると理解が進まなくなる場合があった。その際は、個人ワークの時間を多めに充て集中力を切らさないように配慮した。

学生の取り組みが惰性にならないように、30分ごとにメニューを変える形で授業を構成することを意識した。実施側としても時間の長さは感じない。

飽きさせないように授業準備時点で授業の構成を考えること、ペアワーク、(グループワーク)、個人で取り組む時間、クラス全体でとりくむ時間など、授業時間内で活動方法に変化を持たせることが必要だと感じた。

しっかりと授業の構成をしておかないと、学生の興味・関心が途切れる心配がありました。また、時間が15分伸びたので、学生に授業内容を振り返りしっかり考えてミニツツペーパーに書く時間が取れたことは非常に良かったと思います。

17

## 学生の集中力を促す工夫(3)

課題に取り組む、解説など、ひとつずつの項目を長くても30分までに留めるように心がけた。その結果、学生たちは気持ちの切り替えができ、ひとつずつの項目に集中しやすかったように受け止めた。ただ、コロナの影響でグループワークに時間を割くのが難しい。学生たちの雰囲気があたたまってきたと思う頃にグループワークを終了しなければならないため、今後はグループワークを1時限内に2回行ってもよいのではないかと感じている。

ある程度の時間を決めて演習課題を行わせたことで、冗長になりすぎずに済んだと思います。

授業期間が短くなった分、事前課題を増やし、授業外で取り組む時間や内容を多くしたことで、授業内も集中度合いが増しグループワークも内容が濃くなり、良かったと思います。

学生に疲労の様子が見られたのが課題であった。途中に5分間の休憩をとることによって改善された。

18

## 授業の工夫(1)

去年度と比較して制作の実習は運営しやすかったです。例えば、説明・解説→実施→復習→実施→振り返りという流れて間に「復習」の要素を組み込むことができるので習熟度が上がったのかもしれませんが。

講義の最後に、次回の予習動画、資料を見せて予習を促す時間ができた。そのため、ミニツツペーパーで意見、質問を集めて、次回講義で詳しく回答しながら授業を進めるというスタイルが105分の授業なら出来ると思いました。

1回あたりの講義時間が伸びることで、講義の進行スピードが早まった場合や学生からの質問が想定より少ない場合は、講義時間が余ってしまう問題も起こった。この点に関しては、毎回、自習用の問題を準備することで対応した。

課題とそのフィードバックに十分な時間を割くことができるということ、時間をかけて丁寧に講義をすることができるということ、が挙げられる

19

## 授業の工夫(2)

講義内容による脱線(関連内容についての話)や理解してもらいたい内容の重点説明等、105分であるがゆえに丁寧に進められたと考えている。15回分を13回分に凝縮することで、集中した説明が出来たのではないかと思う。

105分なので、コンテンツ(講義、学生のコメントと学生との双方向対話、関連動画の視聴など)をいくつか盛り込んで授業を行うことができたということです。

105分13回への移行で授業の質が落ちないように、教材や課題の準備、時間配分の調整に改めて時間を費やしたが、おおむね順調と考えている。

時間にゆとりができたので、毎回の講義内容が時間内に終わるかどうかを極度に気にすることなく、前回の授業のレビュー、個人ワーク、グループワークなどを積極的に行なうことができた。

20

## 改善したいと考えていること(1)

学生が集中力を高めたまま臨める授業内容のさらなる工夫が必要だと感じる。特に、理解に時間がかかる内容は別回にうまく分散させるなど、いわゆる詰込み授業にならないよう受講の様子を観察しながらフレキシブルに対応する必要があると思う。

オンデマンド授業での実施においては、13回は適度であったように思う。時間については、105分を体感したわけではないが、授業アンケートをみるとちょうどよかったという学生もいた一方で、長く感じた学生もいたようで、時間配分と課題などのバランスを見直す必要があると感じた。

対面授業では105分授業をハイフレックスで、オンライン授業部分は学生の自学自習のインプットに、対面授業はグループワークとプレゼンテーションというようにアウトプットに、メリハリをつけて展開していこうと考えています。

コンテンツの組み合わせ方にもよりますが、学生の集中力を一定程度保つには、さらに工夫が必要だと考えています。

21

## 改善したいと考えていること(2)

基礎的な知識を自ら調べる能力を高め、自ら課題を解決する方法が変わったことが良い点です。提示した見本以外はやっていないということが課題です。今後、見本を学生たちと検討しながら、事前にそのほかの可能性や関連事件などにも広げて調べていくことを提示することです。

学生が集中力を高めたまま臨める授業内容のさらなる工夫が必要だと感じる。特に、理解に時間がかかる内容は別回にうまく分散させるなど、いわゆる詰込み授業にならないよう受講の様子を観察しながらフレキシブルに対応する必要があると思う。

個人ワーク、グループワークなどの運用をさらに工夫し、学生をリフレッシュさせると同時に、授業の質を向上させること。

22